

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670105131
法人名	社会福祉法人 寿康会
事業所名	寿康園グループホーム宮之浦
訪問調査日	平成20年2月16日
評価確定日	平成20年5月19日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4670105131
法人名	社会福祉法人 寿康会
事業所名	寿康園グループホーム宮之浦
所在地	鹿児島市宮之浦町892番地 (電話) 099-294-1017

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年2月16日	評価確定日	平成20年5月19日

【情報提供票より】(平成19年 1月 18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	11人, 非常勤 6人, 常勤換算 15.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,440 円	その他の経費(月額)	9,120 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1000 円		

(4) 利用者の概要(平成19年 1月 18日現在)

利用者人数	18名	男性	8名	女性	10名
要介護1	8名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 85.6歳	最低	71歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	うえはらクリニック 太田歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市郊外の住宅街にあって、近隣住民の協力支援をもらいながら明るい居室でのどかに生活している。ホーム前の畑には季節の野菜が育ち、旬の野菜を取り入れた献立は利用者の食欲をそそり、楽しい食事時間を提供している。消防署が近くにあるので日常的に関わりがあり、色々な面において安心感のある環境にある。散歩コースには一般住宅の東屋も利用でき、地域の方とお茶飲みを通じた交流の場になっている。管理者・職員は、職員会議においてソフト面の話し合いを主に、メンタル面のケア充実を図る勉強会に力をいれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題(重要事項説明書における利用者の権利、義務に関する項目・冷蔵庫の衛生管理・洗剤の保管・金銭管理記録)は検討し、改善できている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は評価の意義を理解している。自己評価は各ユニットの職員で取り組み、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	公民館長・民生委員・地域包括センター・建物の所有者・家族の参加を得て、2ヶ月に1回開催している。ホームの運営状況・利用者の日々の暮らしや外部評価の報告をしている。会議を通して災害時の協力関係や地域との交流が広がり、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の面会(2週間に1回はある)時に与えられた要望など職員と話し合い、具体化して運営に反映している。社協ボランティアが話し相手になって聞き役を努め、さまざまな事を相談できる場面を作っている。事故報告書・ヒヤリハットに記載したものを即座に対処できる書式に変える方向で検討中である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域行事への参加・保育園・中学校交流ができている。(夏祭り・文化祭など) 又、地域の高齢者サロンにおいて認知症への理解を深める活動を実施、相互協力が生まれている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営法人共通の理念となっている。利用者の人権を大切に、その人らしく暮らせる事を重視し、地域密着型サービスを反映した理念である。		管理者をはじめスタッフ全員で話し合い、年度ごと設定目標(身近なスローガン)を掲げ、ホーム職員全員の共有化を図る事が望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や事務所に掲示している。職員会議で理念を確認し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議の話し合いを基に地域行事への参加、保育園・中学校交流、夏祭り、文化祭への参加ができている。又、地域の高齢者サロンにおいて認知症への理解を深める活動を実践している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で取り組んでいる。外部評価については運営推進会議や職員会議に報告検討し、改善を図っている。家族へも外部評価の意義と改善内容を報告している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	公民館長・民生委員・地域包括支援センター・家族代表の参加を得て今年1月までに4回実施している。回を重ねる毎に地域の協力も得られて、活動範囲も広がり、サービス向上に活かしている。		

鹿児島県 寿康園グループホーム宮之浦

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自治会には加入していないが、運営推進会議構成員に2つの集落の公民館長加入の結果、2地区の行事に参加できている。地域からあがった相談事に市担当者・地域包括支援センター・社協等と対応できる連携ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求時にグループホーム内の情報を報告している。個々の情報は面会時に家族に話し、精神的フォロー等、協力もっている。金銭管理の領収書確認もできている。2週間に1回の割り合いで面会がある。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情体制を整えており、窓口として全職員が受け付けている。面会時に聞き取りを行ったり、家族から何でも話してもらえ関係が築けるよう努力している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	オープン当初は法人との連携が主だったが、現在は利用者への配慮を大事に、異動は必要最小限に抑え、固定化しつつある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に関する資格手当制度を設けている。研修計画は法人系の計画に合わせている。法人内研修・外部研修に自主的に参加している。		職員の希望および実践に即した研修内容を盛り込んだグループホーム独自の年間計画を作成し、意欲を導き出す取り組みが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福祉施設士会の研修参加など同業者との事例検討や意見交換の場を設けている。同業者間でも研修会を主催し、職員の質の向上に繋がる取り組みを実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族の意向での利用申し込みが大半である。入居前は必ず家族と一緒にホーム見学をしてもらっている。お茶飲み感覚でホームの雰囲気に馴染んでもらい不安軽減を図っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>過度の介護はせず、利用者の残存能力が発揮できるよう支援している。利用者からの学びを大事にしている。個々の利用者に合った(畑仕事・門松づくり・そば打ち・おせち料理など)役割分担ができていて、自然な形で支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者本人は思いや意向を伝える事が困難である場合が多いので日常の会話の中で利用者が発した言葉を個人記録・業務日誌に記録している。記録の中から利用者は何を言いたいのか、家族と一緒に感じとり検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の思いや生活歴を把握し、家族の要望も入れて話し合い、個々に合わせた介護計画(例:美容室に行く。針治療に行く等)を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>半年に一度サービス担当者会議を開催し、検討する。サービス内容に変化が生じた場合は期間に関係なく話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診、リハビリの送迎など家族、本人の希望や状況に応じた柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には今までのかかりつけ医を担当医とする。希望があれば協力医で対応している。専門の病院については家族に通院介助を相談し受診している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重要事項説明書の中で方針を説明し、同意書をもっている。利用者・家族・医療機関と話し合いながら全員が方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃から職員の意識向上を図り、利用者への言葉使い、誇りやプライバシーを損ねない対応について指導している。又、守秘義務については職員採用時退職後も含めた誓約書をとっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、おやつ時間以外は一人ひとりのペースを大事にしている。新聞等も個人的に購読している。寝る前に少量の晩酌を楽しんでいる利用者もいる。		

鹿児島県 寿康園グループホーム宮之浦

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者と一緒に旬のものを取り入れ、決めている。買物・下ごしらえ・準備・下膳など利用者職員一緒に行っている。利用者職員全員が囲める大きいテーブルを工夫作製し、会話を楽しみながら食事している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月・水・金が男性、火・木・土は女性と設定している。利用者からの要望や清潔保持の為にはその都度応じている。異性介助を嫌がる利用者には同性介助をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下ごしらえをする事で役に立っただと感してもらったり、干し大根づくりを職員に指導するなど利用者の特技を発揮している。ドライブや個々に応じた散歩を楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑仕事・散歩・ドライブ等を希望に合わせて外出支援している。墓参り・自宅や田んぼを見に行ったり・外食や地域行事参加したりして閉じこもらない支援ができています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は自由に出入りが出来るように鍵はかけていない。外出願望の利用者に対しては無理に止めるのではなく、職員が携帯電話を持って付き添っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回総合訓練を、3ヶ月に1回消防署と連携して職員・利用者一緒に消火通報・避難訓練をしている。夜間は法人と連携して実施している。消防署・交番との連携がとれている。運営推進会議を通して自治会参加の防災訓練も検討中である。		

鹿児島県 寿康園グループホーム宮之浦

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>法人の管理栄養士に献立の確認や指導をもらっている。食事摂取量・水分量をチェックしている。脱水症状を起こさない水分量や高濃度液状栄養食補給などを考慮している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>近くに養豚場や種鶏場がある立地条件ではあるが、臭いが屋内にこもらないように換気に注意・工夫している。共用空間は広々とソファーや季節の装飾物を随所に置いて居心地良く過ごす工夫をしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個々に応じて居心地よく過ごせる環境にしている。家族の写真・位牌・使い慣れたタンスなども希望に応じ持ち込まれている。必要に応じ消臭剤を置いたり、光で報知する感知機を置いたりし安全管理に注意を払っている。</p>		